

加州能美郡村松村御印

(書き下し文)

加州能美郡村松村物成之事

壹ヶ村草高

一拾貳石 内貳石明暦貳年百姓方方上候付無檢地極

免貳ツ四歩 内貳歩式厘明暦貳年方上ル

右免付之通可納所夫銀口米如定可出也

同村小物成之事

一拾壹匁 草野役

右小物成之分者十村見図之上ニ而指引

於有之者其通可出者也

明暦貳年

八月朔日(禊印)

村松村

百姓中

(読み)

かしゅうのみぐんむらまつむらものなりのこと

いつかそんくさだか

ひとつじゅうにこくうちにくくめいれきにねんひやくしょうかたよりあげそうろうにつきけんちきわめなし

めんふたつよんぶうちにぶにりんめいれきにねんよりあがる

みぎめんつけのとおりなつしよすべきぶぎんくちまいさだめのごとくだすべくなり

どうそんこのなりのこと

ひとつじゅういちもんめ

くさのやく

みぎこものなりのぶんはとむらみつもりのうえにてさしひき

これあるにおいてはそのとおり

めいれきにねん

はちがつついたち

むらまつむら

ひやくしょうちゅう

御用に付出頭方廻状

(書き下し文)

申談御用有之候条

明後廿三日九ツ時揃様各

并長百姓惣代耆兩人宛

相同シ可被罷出候此廻状

先々無滞急々相廻

從落着可被相返候以上

十一月廿一日 喜多一三郎(印)

荻谷村 荻市村

子浦村 聖川村

散田村 下石村

新宮村 當熊村

右村々

肝煎

組合頭 中

(読み)

もうしだんずるごようこれあるそうろうじょう

みようごにじゅうさんにちこのつどきそろいようおのおの

ならびにおとなしやくしょうそうだいいちりょうにんあて

あいどうしまかりでられるべくそうろうこのかいじょう

さぎざぎとどこおりなくきゅうきゅうあいまわし

らくちやくよりあいかえさるべくそうろういじょう

じゅういちがつにじゅういちにち きたいちさぶろう

おぎのやちむら おぎいちむら

しおむら ひじりかわむら

さんでんむら さがいしむら

しんぐうむら とうのくまむら

みぎむらむら

きもいり

くみあいがしらちゅう

収納方不足に付山永代売渡証文

(書き下し文)

永代賣渡申山證文之事

一老ヶ所 まんぜ谷内之内い部之谷内山と申所

代米九斗式升式合

右私当御収納方之内不足仕ニ付何共可仕様茂無御座候

ニ付持指山之内い部之谷内山等申処貴殿江賣渡申所

実正ニ御座候則代米髓ニ請取御公儀様江指上

申所無相違然上ハ若万一在所相談之上山地割等

有之候共右賣山ニ付私方何角申分無御座候

向後右之山貴殿方ニ御支配可罷成候於後日ニ

連判證文仕所如件

本人藤之瀬村

茂兵衛

延享三年刁十一月日

同村肝煎

助左衛門

同村組合頭

助次

同

助市

同

助九郎

同

宗十朗

同

久助

五右衛門殿

(奥書)

右之通当村茂兵衛御納所方之内不足仕ニ付私共見
届為賣申処相違無御座候以上

(端裏書)

いふの谷内 茂兵衛山

(読み)

えいだいうりわたしもうすやましようものこと

ひとついつかしょ まんぜやちのうちいぶのやちやまともうすところ

だいまいきゅうとうにしようにござう

みぎわたくしとうごしゅうのうかたのうちふそくつかまつるにつきなんともつかまつるべくさまもございなくそうろう

につきもちやまのうちいぶのやちやまなどもうすところきでんへうりわたしもうすところ

じっしょうにござそうろうすなわちだいまいたしかにうけとりごこうぎさまへさしあげ

もうすところそういなくしかるうえはもしまんいちざいしよそうだんのうえやまぢわりなど

これありそうろうともみぎうりやまにつきわたくしかたよりなにかどうしぶんござなくそうろう

きようごみぎのやまきでんかたにごしはいまかりならるべくそうろうごじつにおいて

れんばんしようもんつかまつるところくだんのごとし

えんきようさんねんとらじゅういちがつび

ほんにんふじのせむら

もへえ

どうそんきもいり

すげえもん

どうそんくみあいがしら

すけじ

どう

すけいち

どう

すけくろう

どう

そうじゅうろう

どう

きゅうすけ

ごえもんの

みぎのとおりとうそんもへえごなっしよかたのうちふそくつかまつるにつきわたくしどもみ
とどけうらせもうすところそういござなくそうろういじょう

いぶのやち もへえやま

縁組に付人別送り状

(書き下し文)

覺

一 壱人 歳式拾式

羽咋郡上棚村百姓忠左衛門娘
みよ

右之者其御村百姓三四郎方江縁組仕度旨

相願申ニ付此許人別帳指省可申候間

其御村方人別帳江御書加向後御支配

可被成候尤切支丹末類暨神頭之者ニ而も

無御座候間追而縁組願之節加印仕

可奉願上候以上

嘉永六年丑十二月

上棚村肝煎
助五衛門

二所宮村肝煎
藤左衛門殿

(読み)

おぼえ

ひとつひとり としにじゅうに

はくいぐんうわだなむらひやくしやうちゅうざえもんむすめ

みよ

みぎのものそのおんむらひやくしやうさんしろうかたへえんぐみつかまつりたくむね

あいねがいもうすにつきこのもとにんべつちやうさしのぞきもうすべくしやうあいだ

そのおんむらかたにんべつちやうへおんかきくわえきやうごしはい

なられるべくしやうもつともきりしたんまつるいおよびしんとうのものにても

ござなくしやうあいだおつてえんぐみねがいのすじかいんつかまつり

ねがいあげたてまつるべくしやういじやう

かえいろくねんうしじゅうにがつ

うわだなむらきもいり

すけうえもん

にしよのみやむらきもいり

とうざえもんどの

八拾歳者調理書上

(書き下し文)

一 老入 歳八拾 覺

二 所宮村組合頭久助母 ちゑ

但生国同村者ニ而倅久助被養居申候年数偽
無御座候依而私共及聞申通相違無御座候

證拠人同村
次兵衛(印)

(奥書)

右私共在所当年八拾歳者相調理書上申所
相違無御座候此外相洩申者無御座候以上

文久四年子正月

二所宮村肝煎

仲弥(印)

同村組合頭

喜三右衛門(印)

同断

次郎左衛門(印)

同断

西兵衛(印)

同断

藤太郎(印)

柳田村

新左衛門殿

(読み)

おぼえ

ひとつひとりとしはちじゅう

にしよのみやむらくみあいがしらきゅうすけははちゑ

ただししようこくどうそんなものにてせがれきゅうすけやしなのおられもうしそうろうねんすういつわり

ござなくそうろうよってわたしどもききおよびもうすとおりそういござなくそうろう

しようこにんどうそん

じへえ

みぎわたしどもぎいしよとうねんはちじゅうさいものあいちようりかきあげもうすところ

そういござなくそうろうこのほかあいもれもうすものござなくそうろういじょう

ぶんきゅうよねんねしょうがつ

にしよのみやきもいり

ちゅうや

どうそんくみあいがしら

きそえもん

どうだん

じろうざえもん

どうだん

さいべえ

どうだん

とうたろう

やなぎだむら

しんざえもんの